

アリス九號.

les alas blancas llevan a la Gloria

White Wings Lead to The Glory

この夏は全国ツアーで全国をかけめぐり、9月3日には東京国際フォーラム ホールAでファイナルを迎えるアリス九號.。おそらくパワー全開のステージになることは確実だが、ここでひと息つくような彼らではない。ツアーの合間に新曲を着々と仕上げていたのである。本誌ではいち早くそのニュー・シングル

「TSUBASA.」(10月24日発売)についてのインタビューを敢行。さらに、11月にリリースされるニュー・アルバムに関しても予告してもらった。

ついに表紙ですねえ！

全員：ありがとうございます！

しかも10月発売のニュー・シングル

「TSUBASA.」について、早くも語っていただけということ。ということは、夏のツアーの前の時点でレコーディングは完了していたわけですか？

将：いや、実はツアー中にミックス作業をしていたんです。だから、ツアー前から東京に帰ってきて、あまり帰ってきた気がないくらいで。録りの方はツアー前に終わってたんですけど。

さっそく聴かせていただいたんですが、全収録曲（＝3曲）のどれもがゴージャスな曲調になってますね。

将：以前は狙いをいちいち考えてた気がするんですけど、最近は出てくる曲達の中で、純粋にいいと思ったものを出していこうっていう雰囲気なのかなって気がします。

つまり、“ツアーがあるから元気な曲を出そう”とか“秋だからバラード出そう”みたいな思惑は敢えてないってことですね。

将：はい。1曲目、2曲目は虎君の曲なんですけど、みんなで“いいんじゃない？”って感じた曲を単純に選んだだけなんですよ。

虎君の曲ですか。虎君がこういうクリーンな曲を作るのは珍しい気がしますけど……新境地ですね。

虎：新境地ですね。何だろう……割とこんな曲があったらいいなって感じて作ったんで。こういう曲も、そろそろウチらで出来るかなって思ってた。その原曲をみんなで揉んでいった感じですよ。

歌詞の面でも、「TSUBASA.」に関しては特に力強さがありますよね。メッセージ性もあるし。

将：この歌詞は「WHITE PRAYER」（6月リリースの前シングル）と同時期ぐらい書いてて。「TSUBASA.」はデモをもらったのが結構早かったんですよ。その時は自分で自分に対して言っていたり、みんなと共有したいっていう思いも強かったから、メッセージ的な歌詞になりましたね。

「TSUBASA.」っていう言葉そのものにも、ポジティブな要素がありますからね。“羽ばたく”みたいな。

ヒロト：「WHITE PRAYER」の時もそうだったんですけど、俺自身が書いた曲じゃなくてもホントに自分に置き換えられるというか。ということは、これを聴い

てくれるファンの人達も同じようにとらえてくれるんじゃないかなと思うんです。そういう意味でもすごく好きな曲ですね。

Nao：しかも、今まではちょっと違うぞっていうところが、いつも以上に伝わるんじゃないかな。今までにないアレンジがされてると思うんで、だいぶ楽しみにしてて欲しいんですけどね。まあ、どれくらいアレンジされたかっていうと、俺が……………『ビリーズブートキャンプ』でホッソリしたって感じくらい（笑）。それくらい変わった！

たとえば今ひとつですねえ（苦笑）。でも、ホントに進化した気はします。

Nao：作っていく上で、3曲のうち、どの曲をメインに推すかでも悩みました。ホントに意見が分かれるくらいで。最終的には両A面って形になりましたけど。

確かに3曲ともシングル向きというか、強力なインパクトがあると思いますよ。

沙我：今までは僕ら、感性で音源を作ってた気がするんですけど、今回はちょっと違いますね。アンサンブルを考えて、全体の完成図を計算しながらやった感じですよ。

緻密な制作だったんだと。

Nao：これはアレですか、レコーディングの話もきかれますか？

ききたいですねえ。何かひらめきましたか？

Nao：今回、これまでにやったことのないことをしてまして。レコーディングのとき、メンバー全員で一気に合わせて録るっていうやり方だったんですよ。みんなで演奏することによって“その方が聴いてて気持ちいい。ノリも出てる”ってプロデューサーさんにも言ってもらえたし。まあ、何テイクかじっくりこないところがあったんですけど、チャイナクイックのお弁当を食べた直後のテイクが一番よくて（笑）

やっぱり食べ物ネタですか（苦笑）。それ、単純に空腹だっただけのことじゃない！

Nao：そんなレコーディングでした。パワー入りましたよ（笑）

素晴らしいエピソードですね（笑）

Nao：あんかけ焼きそばで（笑）。うずらの卵は最後に食べる派です。

同じリズム隊として、沙我君はどんな感想を？

沙我：緊迫感があってよかったと思います。

将：リズムに勢いが出た気はしますね。

Nao : 楽しかったよね。俺は新鮮で楽しかった。

沙我 : …………… (別世界へワープ中)

あれ？沙我君は楽しくなかったんですか？

沙我 : あ……いや！楽しかったですよ

(笑)。細かい間違いとか、あまり気にしなかったですね。やっぱりノリ重視で。音作りもそこで変わってきたなと思います。

リズム隊はノリ重視だったようですが、ギターのふたりはどうだったんですか？

ヒロト : 最初にドラムを録る時に全員で合わせたから、ある程度のフレーズはそこで決まっていたんですよ。だから迷いがなかったですね。あと、ボーカルが入った状態で録り始めるってことがなかったんで、全然違うと思いました。みんな生き生きしてた気がします。「WHITE PRAYER」の時も、リハーサルでは全員で合わせてたりしたんですけど、レコーディングはひとりずつ録っていたんですよ。そこからさらに発展できてよかったなと。

ここ最近、バンドらしい部分にメンバー全員の意識が向いてますからね。

虎 : ノリ重視っていうのもあるんですけど、とにかく今回のシングルに関しては、いつもより関わってくれる人が多くて。

現場に人の多いレコーディングだったんですよ。なので、まったくいつものレコーディングの感じとは違ってましたね。ちょっとやりにくいところもありましたけど……いろんな意見が飛び交っていたんで。でも、いろんな意見が多い分、いいものが出来上がっていくのがわかるとうか。納得するものが出来ていくのが楽しかったです。

楽器隊は実りあるレコーディングだったようですね。ボーカルに関してはどうだったんですか？

将 : みんなが早いテンポで録りを終えてくれた分、僕が今までの4倍くらいレコーディングに時間をもらっていたんですよ。そんなに！

将 : 時間がかかったというよりは、こだわる時間をもらったと思います。今まで自分でもロディーをつけて、理論的じゃなく感覚でしか歌ってなかったんですよ。それを全部鍵盤におこして、プロデューサーさんと相談しながらメロをつけていったんです。それでも、気持ちよく歌えるところまで目指してやれたんで、歌う人間としてちゃんと構築して出来たかなって。一歩進めた感じがして嬉しかったですね。

おお～！成長の証じゃないですか。1月にはアルバム発売もひかえているよ

うなので、もしかしたらこのシングルは、
今後のアリス九號. を占うキーになる
曲かもしれないですね。

将：アリス九號. としてのキラチューンっていうか、武器になる曲が欲しかったっていうか、イントロを聴いてだけでも、みんながアガれる曲が欲しいとおもってたんですよ。みんなに届いた時に、この曲がそうになってくれたらいいなとおもいます。

この辺で、秋に出るアルバムについてもちょっとだけききたいとおもってるんですが、どんなものにありそうですか？

虎：選曲会はまだもう終えてて、それをつめていく感じなんですけど、かなりいろんな曲があるとおもいます。

将：僕がまず感じたのは、沙我君の曲がUKロックじゃなくなったと。今までのは、彼は、センシティブな曲っていうか、しっとりした曲が多かったんですけど、それがキャラ変えしたみたいなの。

どんな風に変化したんですか？

将：なんだろう？ハードロック？

沙我：というか……アリス九號. になかった感じ。もっとデカいこうよって感じの……バンドとしても。

へえっ（どんなんだろう……）。

将：沙我君がすごく様変わりしたから、全体的に、だいぶ違う色に見えるかもしれないですね。

沙我君には何か心境の変化でもあったんですか？

沙我：こういう曲を作ろうとかじゃなくて、単純に好きなものを作ってみただけなんですけど。

ヒロト君はどうですか？アルバム曲に関しては。

ヒロト：俺、常にアツいやつだと思われがちじゃないですか。

虎：思われがちって（笑）。アツくねえみたいじゃん。

ヒロト：そういうわけじゃないんですけど、だからといって常に「ヴェルヴェット」みたいな曲を作っているわけでもなく——。その時の自分の気持ちを形にしてるんで。

沙我：“こういう曲を作ろう”とか考えると幅が狭まるんですよ。それを考えながらやっちゃうと、結局今までの延長線上だったり。

将：アリス九號. のメンバーって、意外とみんな真面目で。例えば“シングルを作ろう”ってなったら、みんなシングルっぽい曲を作っちゃおうし、変に真面目にやりすぎていたところがあったんですよ。それが最近、いい意味でラフ

になれてるんじゃないかと思って。でも、アリス九號. 自体がバンドとしてガッチリ固まりつつあると思うんで、バラエティーに富みながらも“今、自分達はこうです！”ってハッキリ言えるような作品になるとおもいます。

今から楽しみですね。でもその前に、いよいよ9月3日の東京国際フォーラム・ホールAでツアー・ファイナルを迎えるわけで。このインタビューの時点では、まだまだ絶賛ツアー中って時期ですが、今のところ各地の感触はいかがですか？それぞれにうかがいたいんですけど。絶対に、各地でのすべった転んだ話があるはずですよ。

将：すべった転んだって話をファンクラブ。イベントでしてました（苦笑）
そうか！今回はファンクラブのイベントを行った会場もあったんですね。あと、本日やや風邪気味のメンバーがいるようですが……ツアー先で風邪ひきました？

Nao：はい。俺は……バカじゃなかった！……まあ、すぐ治りましたけど（笑）

将：ホントに死にそうな顔をしてた次の日は、笑いながら餃子食べつつお酒を飲んでましたからね（笑）。運良くライブにも影響なかったし。

ヒロト：俺はまったくの健康体ですけど（笑）。すごい体力がついた気がします。今回のツアーって、今までで一番本数も多いし、2連チャンが続いたり、1日2回あったりするんですよ。でも、ライブが終わったあともバテることがなくて。あと、個人的になんですけど、自信があります。

あ、それは今回のツアーに対してですか？

ヒロト：はい。あくまで個人的にっていうレベルなんですけど。

虎君のご意見は？

虎：反省会は毎回してますけど、昔より反省する内容がよくなっているっていうのはいいことかなと。昔の反省会なんて、そもそもダメすぎてどこから言っているのかって感じだったんですよ（苦笑）。最近はちゃんと言える範囲で“こうしていこう、ああしていこう”っていう感じになってるんで。

ヒロト：ちゃんと言葉が出るようになってきましたね。

虎：以前は、その日のライブ・ビデオを見終わったあと“うーん……（沈）”みたいな（笑）。やっぱ楽しいだけじゃダメだよなって言ってたのが、かなり改善されてきたと思います。こういう感

じで、これからもよくなっていけたらとおも
思いますね。

さきほどの話から、これだけ本数があつたり、2連チャンとか1日2ステージとかあつたりすると、ボーカルとしてはかなり負担が増えますよね。将君的にそこはツラくなかったですか？

将：正直すごく元気な時に、気をつか
いすぎて栄養剤と薬を飲んだら、逆に
体調を崩したんですよね。でも、ライ
ヴには影響がないようになってきたな
と思います。歌に対するプライドとか
責任感が出てきて、常にいい歌を届ける
んだって気持ちでできるようになった
で、今のところいい感じですよ。

メンタル面でもなってきたんでしょうね。

将：たぶん以前よりは。あと、ツアーが
始まって間もない頃に、偉大な先輩とイ
ベントで対バンさせてもらったんで、そ
こでもビシビシ刺激を受けました。

もしや、福岡のイベントで一緒になった
abingdon boys school かな？

将：もうがんばるしかないっていうか…
…とにかく刺激を受けましたね。

ところで、今年の流れで言うと、シング
ルを出し、ツアーもやって、またシング
ルを出して、その次はいよいよアルバムの
リリース——っていう、かなりいいペ
ースだと思うんですよ。しかも、これだ

け突き進んでいると、周囲からも“次は
アリス九號. だよ”みたいな、いい
意味での期待もすごく大きいじゃないで
すか。そういう状況って気になります
か？

将：んー、期待に応えようというよりは、
自分らががむしゃらにがんばりたいとこ
ろに、応援してくれる方々がたくさんい
てくれるっていう。そこにはすごく幸
せを感じますね。ただ、それを重荷とか、
マイナスに感じたりっていうのはないと
おもいます。

ヒロト：まわりから期待してもらえるの
すごく嬉しいことなんですけど、そうい
うところじゃなくて……やっぱり自分達
が主になってもっと動いていかなきゃい
けないって思いますね。期待されてるか
らがんばろうじゃなくて、むしろ俺らが
このシーンを引っ張っていきたいです。
まりが盛り上がってるからがんばろうじ
ゃなくて、自分達がかんばってるからま
わりが盛り上がるんだみたいな。そうい
う気持ちでいかないとダメかなって思
います。

さすがアツい男ですね！

ヒロト：それはすごく思います。

将：いいこと言った！

ヒロト：もちろん、ファンの子がきてくれるからがんばろうって気持ちも大事だけど、発信源であり、ステージに立つ者として、ファンのみんなをはじめ、周りを取り巻く人達を、俺らがもっと引っ張って行って進まないといけないなって…強く……思う……

突然断定形ですね（笑）。

ヒロト：だかた、「TSUBASA.」もそういう曲だと思う！そういう時だから、あの曲が選ばれたんだと思う！

強い発言ですね～！そうやって、いろんなことがタイムリーに重なったシングルになったんだと。

ヒロト：それもイミングが来たからじゃなくて、自分達でどんどんいくようじゃなきゃダメだって……思う！（笑）

その言い回し、気に入ってますね（笑）。じゃあ、最後にアツい発言で沙我君にシメてもらおうかな。

沙我：えっ……（焦）。全然熱くないですよ、俺（苦笑）

え？そんな（笑）。せっかくだ話の流れだったのに（笑）。

沙我：それは彼（ヒロトを指す）が言ってくれるんで（笑）

あら？

沙我：俺に話をフットのが間違いですね（笑）

あ、すいません（笑）。じゃあ、シメは将君にお願いします（笑）。

将：え……と……今まではどこか甘えてた部分もあったと思うんですよ。最近自分達で、切り開いていく、勝ち取っていくっていう気持ちが前より増している気がして。今、どんどんメンバー全員がハングリーになってきているし、ツアーでも、もっともっとよくなっていきたくて日々思ったりしてるんですよ。自分でも感じるんですけど、結成した時以上にみんながハングリーでバンドらしくなっていくのが、逆に不思議なぐらいかなって。それぐらいメンバーがまっすぐにバンドの方を向いているんですよ。今までは音源を作っても自分達を探しているような感じだったんですけど、秋以降のシングルとかアルバムで、“これが俺達です”って胸張って言えるものを作って、それをまた音源をライブでみんなを共有したいなど。ホントに終わりはないんですけど、ひとつのアリス九號. を完成させたいと思ってるんで、よろしくお願いします！

おお！美しくまりましたね！ありがとうございます！